Panaracer
補修用自転車タイヤ 取扱説明書

●取扱説明書をよくお読みのうえ正しくご使用ください。
そのあと保存し、必要なときにお読みください。
●タイヤ・チューブの交換は専用工具や専門知識が必要です。整備士資格のある専門店または専門コーナーに依頼されることをおすすめいたします。自分で交換される場合、自転車の種類によって方法が異なりますので、分解・組立方法については自転車メーカーへお問い合わせください。

ご使用前に

▼この商品は舗装路面用自転車タイヤです。レースや不整地での使用や、自転車以外の目的には使用しないでください。
▼交換されるタイヤと同じ表示サイズか確認してください。
（例）W/O 26 × 1⅜
① ② ③
①リムの種類（W/O、H/Eのいずれか）
②タイヤの直径（インチ）
③タイヤの幅（インチ）
▼タイヤの取りはずしや取りつけには必ず専用工具のタイヤレバー（別売）を使用してください。
※ドライバーなどを使用するとタイヤやチューブを傷つけます。
▼タイヤの交換時に、リムテープ（別売）も新しいものと交換してください。
※リムテープとは、スポーク穴をふさぐためのゴムまたは樹脂製のバンドのことです。（右図参照）
▼購入直後の製品でも、在庫の保管期間や状態によっては経年変化によりタイヤに亀裂を生じたり劣化、変色している場合があります。装着前に異状があった場合、使用せずご購入店または弊社「お客様相談室」へご連絡ください。

安全上のご注意 （必ずお守りください）

⚠警 告

■タイヤ装着時リムに油やワックスを使用しない

走行中にタイヤがはずれて転倒の原因となります。

■タイヤの空気圧はタイヤに表示されている標準空気圧にしたがう

パンクによる転倒の原因となります。

■走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検する

パンクによる転倒の原因となります。

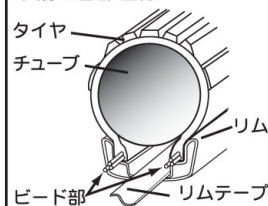
■改造はしない

タイヤが破損して転倒の原因となります。

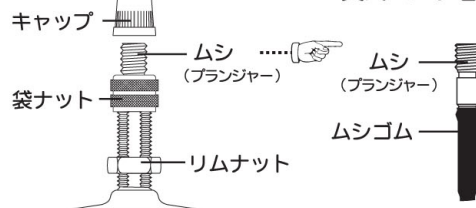
お願い

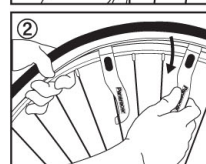
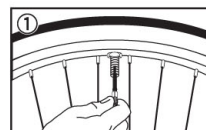
●タイヤの空気圧チェックは走行前に必ず行ってください。
※空気の入れ過ぎや低圧使用はタイヤの破損やパンクの原因となります。必ず標準空気圧（推奨空気圧）に従ってください。
●タイヤが以下の状態になった場合は直ちに交換してください。
1.タイヤ接地面及び側面に亀裂、シワ、傷、異状摩耗がある。
2.ビード部やタイヤ内側に傷、異状摩耗がある。
3.接地部ゴムが摩耗しタイヤがスリップする。
●タイヤを装着する際は、ブレーキゴムがタイヤ側面に当たらないように調整してくだい。
●直射日光や雨の当たる場所に置かないでください。
●ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
●ガソリン・有機溶剤・油類のあるところに置かないでください。
●商品の取り扱いについて不明な点は、お買い上げの販売店または「お客様相談室」にお問い合わせください。

正しいタイヤの取り替えかた

車輪の各部名称

必要な道具

※タイヤレバー・ポンプは当社オリジナル製品をおすすめいたします。

タイヤの取りはずしかた（英式バルブチューブの場合）

①バルブのゴムキャップと袋ナット、リムナットを外し、ムシ（プランジャー）を抜き、空気を抜いてください。※この時ムシゴムが裂けたりひび割れたりしている場合は新品と交換する。

②ビード部にタイヤレバーを10㎝位の間隔で１本ずつ差し込み、矢印の方向に倒してください。
※このときチューブを傷つけないように、タイヤレバーはビード部のみにかけるように注意。
※差し込んだタイヤレバーが外れないようにしっかりとスポークにかける。

③リムに沿って20～30㎝程度、②の作業を繰り返しながらビード部を外し、残りのビード部を指で外してください。

④片側のビード部全体をリムからはずし、バルブ部分を残してチューブを取り出します。

⑤タイヤと、チューブのバルブ部分とをいっしょにつかみ上げ、もう片方のビード部をリムから外します。

タイヤの取りつけかた（英式バルブチューブの場合）

①タイヤにチューブのバルブ部分をはめ込み、リムのバルブ穴にチューブのバルブを通してください。

②リムに沿って片側のビード部を徐々にリムにはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。

③チューブをタイヤの中に入れてください。
※このときチューブをねじったり折り曲げたりした状態でむりにタイヤに押し込まないように注意。

④もう片方のビード部をバルブの反対側（図の矢印の位置）からリムに沿って徐々にはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。

⑤バルブ部分へのビード部はめ込みは、チューブがはさまらないようにバルブを図のようにリムの内側に、2～3回軽く押し込んでください。
※ビード部を両側ともはめた後、リムとビードの間にチューブがはさまっていないか両側のビード部を必ず点検する。はさんだまま空気を入れるとパンクします。

⑥バルブにリムナット、ムシ（プランジャー）、袋ナットの順に取りつけてください。
※リムナットを締める際、スパナなどは使わず、必ず指で締めるようにする。

⑦空気をすこし入れてビード部がリムに均一にはまっているか点検してください。均一でない場合は、空気を抜いて手でもんで調整します。調整の後、空気を徐々に入れてください。※ポンプはポンプ取扱説明書に従って正しく使用する。

⑧空気圧はタイヤの側面に表示された標準空気圧（推奨空気圧）か、タイヤを指で押しても簡単にへこまない程度（軟式野球ボールの硬さ程度）になるまで空気を入れてください。最後にバルブのゴムキャップをつけて終了です。